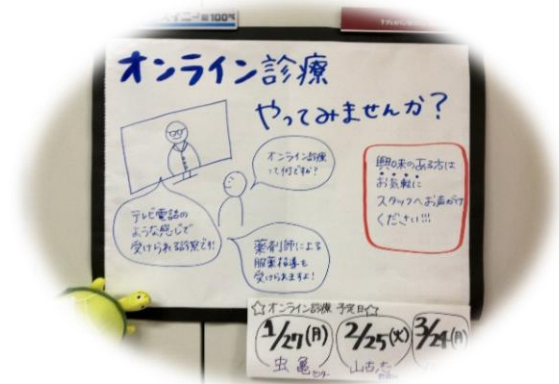




距離を超えて、心をつなぐ医療 — 中山間地におけるオンライン診療の挑戦 —



新潟県長岡市



人口

252,527人(2025.12.1)
県内では新潟市に次ぐ第2位



特色

豪雪の山間部から海岸部まで総面積891.13km²
長岡まつり大花火大会は日本三大花火の一つ



特産品

米、酒、錦鯉など



地域医療の課題



診療所の減少

- ・ 人口減少
(利用患者の減少)
- ・ 医師の高齢化
(診療所承継者の不在)
- ・ 医師の地域偏在
(都市部への集中)



交通弱者の増加

- ・ 住民の高齢化
(移動機能の低下、運転免許返納)
- ・ 同居や近居で親のサポートを行う
子世代の減少 (都市部流出)
- ・ 公共交通の減便、廃止
- ・ 地理的条件(山間地域、豪雪地帯)



地域に暮らし続ける住民が
かかりつけ医による診療を
受けられなくなる





導入の舞台となった山古志地域

市の南東部に位置する山間地で、日本の原風景が残る場所として知られる。
デジタル村民制度やNFTを活用した地域活性化でも話題に。



基本情報

- ・面積:約39.8 km² ・人口:697人(2025.12.1)
- ・合併:2005年に長岡市へ編入
- ・アクセス:長岡駅から車で30分(公共交通機関なし)



特徴・文化

- ・中越地震(2004):甚大な被害で全村避難。2007年に住民の7割が帰村。
- ・棚田の景:四季折々の絶景スポットとして多くの写真家が来村。
- ・錦鯉発祥の地:国内外からバイヤーや愛好者が来村。
- ・豪雪地帯:冬には3～4mの積雪。



医療機関

- ・山古志診療所のみ(虫亀診療所・種芋原診療所は2022年12月から休止)
- ・地域内に調剤薬局がないため、薬は山古志診療所で院内処方

山古志地域オンライン診療の経過



令和4年12月8日
長年勤めた医師が退任
・山古志地域内の山古志・
虫亀・種芋原・の3診療所
すべて休止

令和5年1月13日
山古志診療所で診療再開
・長岡中央総合病院の医師を派遣
し、2時間×週2回の診療を開始

令和5年1月30日
オンライン診療開始
・長岡中央総合病院と山古志診療
所をビデオ通話で接続して診療
・2時間×週2回の対面診療は継続

令和5年11月
オンライン診療車導入
・テレビ会議システム等を搭載した車両を虫亀、
種芋原地域に派遣し、患者の移動負担を軽減

令和6年1月
新医師就任
・山古志診療所は週2回終日の対面
診療に(虫亀・種芋原は休止継続)
・長岡中央総合病院からの派遣終了
したが、オンライン診療は継続

令和6年2月
電子カルテ導入
・クラウド型を採用し、医師・
看護師・事務が別の地点
から同時操作可能に

令和7年10月
民間モデル事業
・山古志以外の地域にも広げて
いくため、民間クリニックでの
試行支援開始

診療体制その1「オンライン診療所型」



長岡中央総合病院



テレビ会議システム

クラウド型電子カルテ



山古志診療所



患者さんはいつもと同じように、自家用車やコミュニティバスで診療所へ
➡ 診察室でテレビ通話の診察を受け、薬を受け取って帰る

診療体制その2 「オンライン診療車型」



オンライン診療車に看護師が乗り、
地域の集会所や患者さん宅へ



テレビ通話で
医師の診察・薬剤師の服薬指導



翌日に診療所職員が患者さん宅を
訪問し、薬配達・会計を行う

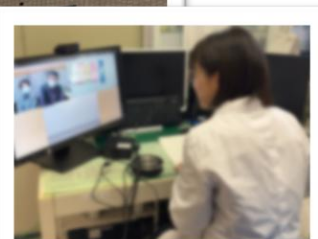
テレビ会議システム
クラウド型電子カルテ



長岡中央総合病院



山古志診療所



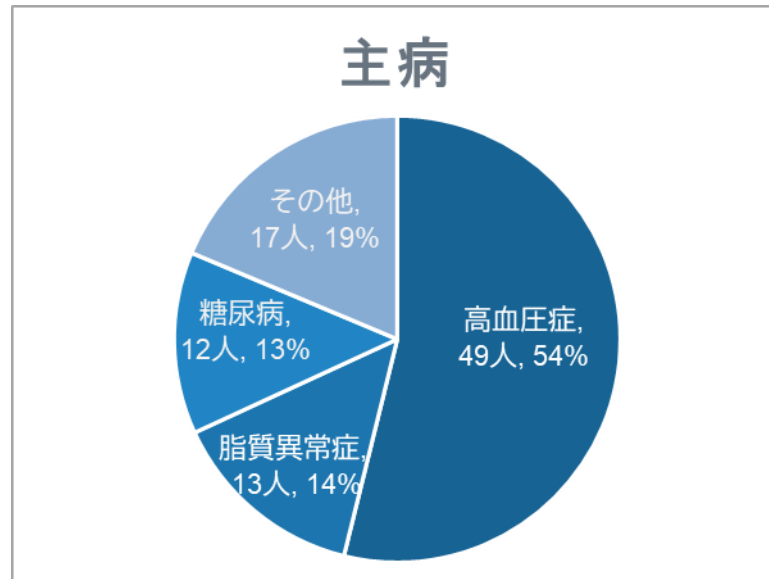
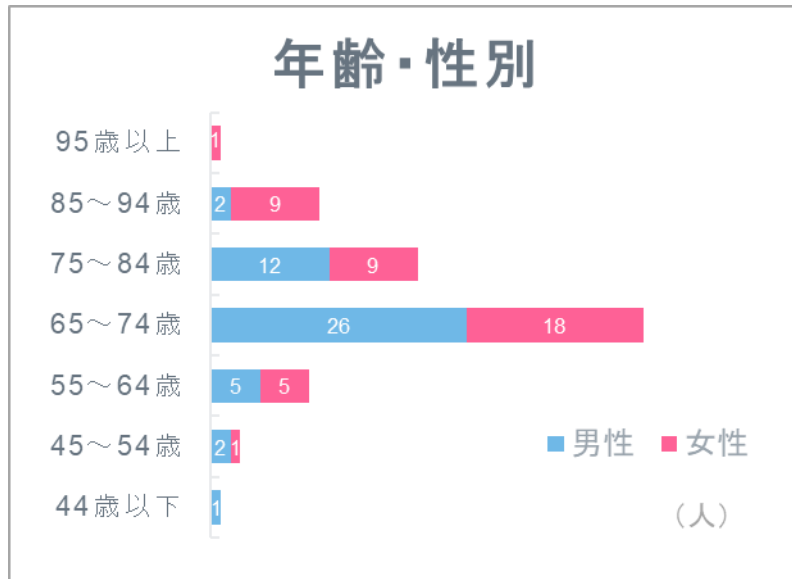
処方せん



■ 受診者数実績 2023.1～2025.12

- ・のべ223人(毎月最終月曜に実施、計36回)
- ・実人数91人(山古志診療所定期受診患者201人の約45%)


■ 受診者属性 2023.1～2025.12



患者アンケート



実施期間：R5.12～R6.6 回答者数：27人

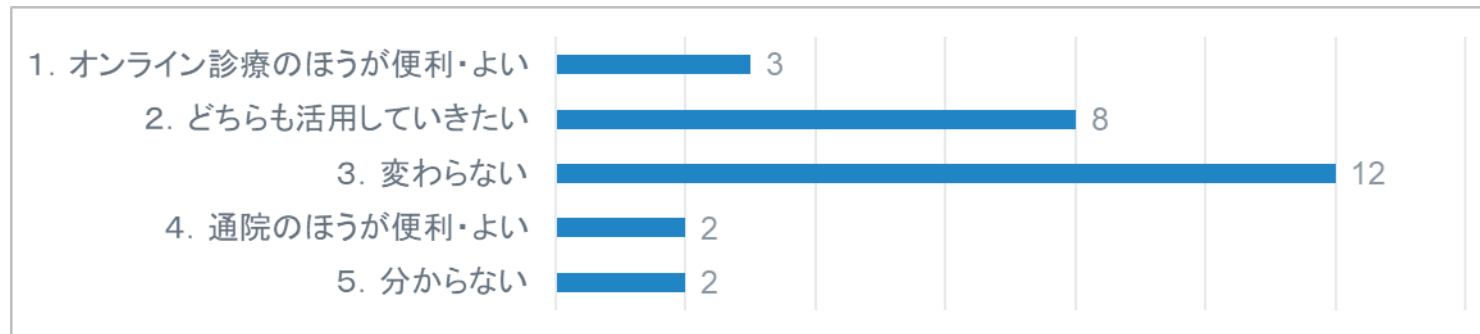
 安心して受診することができましたか。



 医師とは問題なく話ことができましたか。

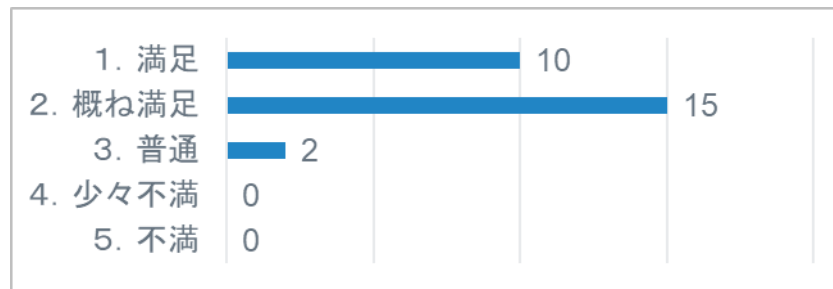


 今回のオンライン診療は通院での診療と比較していかがでしたか。





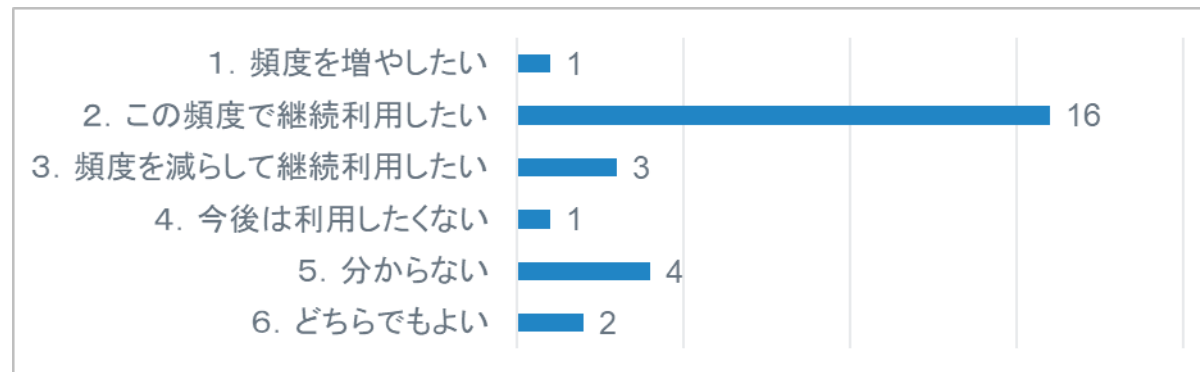
 今回のオンライン診療の満足度はいかがでしたか。



・体調の変化がないときはよいと思う
・近い方がよい(冬は特に!!)



 今後、オンライン診療を利用したいですか。



自由意見

求められるオンライン診療の違い



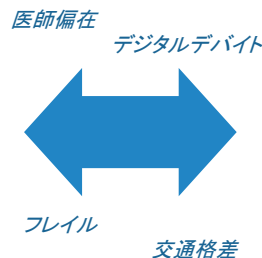
D to P with N

(Doctor to Patient with Nurse)

- ・看護師の診療補助により診療の質や患者の**安心感**を担保
- ・医師は移動負担がなく、従事しやすい

オンライン診療車

- ・患者・家族の移動負担軽減
- ・患者側の端末用意・操作不要
- ・安定した環境
- ・患者のプライバシー保護



スマホでオンライン診療

- ・予約、受診、支払から処方薬の発送まで**アプリで完結**
- ・自宅や職場で受診できる
- ・さまざまな医療機関から選択可能

【人口減少と高齢化が進行する中山間地域】

ひとの手によるサポート・安心感
「つながりと寄り添いの診療」

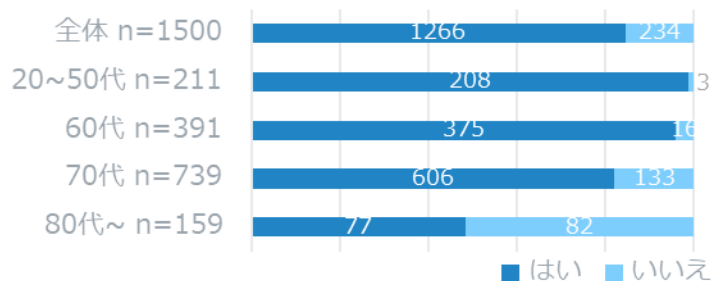
【若年層が多くライフスタイルが多様化する都市部】

セルフマネジメント・時短・非接触
「スマートで自由度の高い診療」

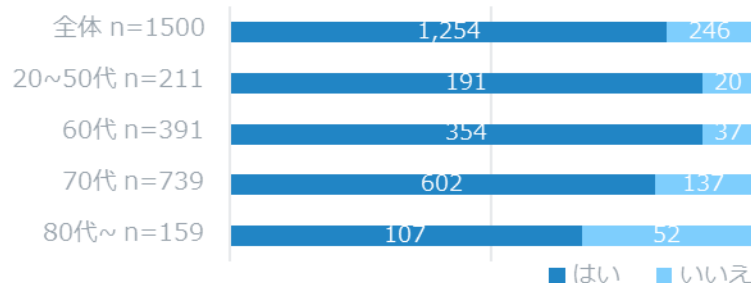
オンライン診療の普及状況・市民の意識



スマホやタブレット端末を所有・使用していますか



「オンライン診療」を知っていますか



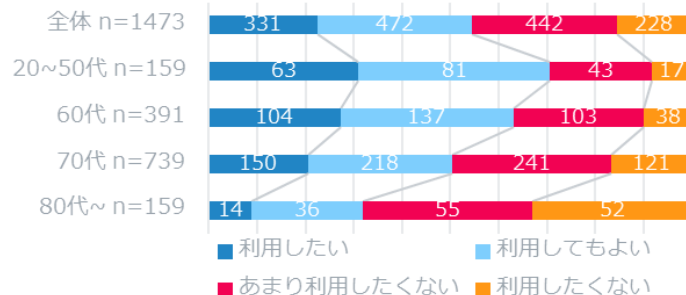
オンライン診療を受けたことがありますか



一人で受けることはできますか



オンライン診療を利用したいですか



オンライン診療の普及状況・市民の意識



■「あまり利用したくない」または「利用したくない」と回答した人
(n=670)の理由(複数回答可)

医師とうまく話せるか心配	135	↑ ひとの手によるサポート によって利用可能に ↓
スマホの操作がわからない	316	
対面による安心感を得られる	25	
年齢的に覚えることが困難	15	
スマホを持つ予定がない	2	
通院時、別の用事や楽しみがある	14	↑ 加齢、医療・交通環境の 変化により、将来的に必 要となる可能性あり ↓
自宅から医療機関の距離が近い	19	
現状通院できている	15	
面倒	10	
医療機関に受診をしていない	7	
必要性を感じない	3	
十分な診察ができないと思う	234	↑ 状態に合わせてうまく取 り入れれば、負担減につ ながる可能性あり ↓
医療機関受診時に検査等が必要	3	
費用面に疑問等を感じている	3	

地域の医療が変化する中で、
受診の機会を確保するため、
安心してオンライン診療を
利用できる環境を整えていく

オンライン診療のさらなる活用に向けて



高齢者のデジタルシフトに合わせたアップデート

(市立診療所において)

- ・スマホ保有率やITスキルの向上に合わせた支援の簡素化
- ・支払いのオンライン決済化
- ・オンライン診療枠の拡大

など



市内医療機関への導入促進

- ・医療関係者、市民に向けた啓発
- ・診療報酬等の導入課題の分析
- ・多職種による連携体制に関する検討 など



